

早生稲の研究者 吉川類次頌徳碑 を移転

吉川類次頌徳碑が移転されることになり、二月十四日、移転のた

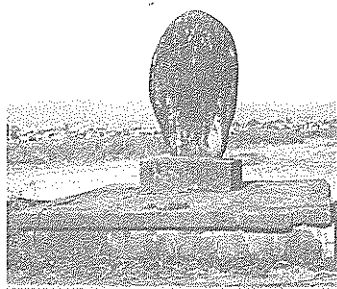
めの神事が行われました。

吉川類次は、安政五年（一八五八年）衣笠に生まれました。篤農家として知られ、早生の稲を研究し、明治三十二年（一九〇九年）超早生の稲を作り出すことに成功。これは、後に「衣笠早生」と名付けられ、高知県における水稲の二期作発展の基礎となりました。

その功績をたたえ、昭和七年、香長平野の中心地、大浦大黒田の県道南國野市線沿いに頌徳碑を建立。しかし、時代の変遷とともに、付近の水田は、人家や工場へと変わり、台座の傷みも激しくなりました。そのため、よりふさわしい場所に移転を、という要望があり、昭和六十年十一月、吉川類次翁頌

徳碑

徳碑保存会（溝淵正会長）が発足。検討を重ねた結果、市農協本所前広場の一角に移転が決まりました。移転が完了するのは、三月上旬の予定です。



移転されることになった頌徳碑

臨時市議会

第百九十五回議会（臨時市議会）が、二月九日から十二日までの四日間にわたって開かれ、十二月定例会で否決された「市道の廃止について」と「市道の認定について」、「野中小集落地区改良事業改良住宅建設工事請負契約の締結について」、「南國市黒滝し尿処理場改善工事請負契約の締結について」、「野中小集落地区改良事業改良住宅建設工事請負契約の変更について」の五議案が審議され、いずれも可決されました。

黒滝し尿処理場を改善

黒滝し尿処理場は、従来、複合ラグーン方式によって処理されていましたが、現在の施設を改善しなければ現状どおりの処理は難しくなりました。そこで、新処理場が建設できるまで現在の施設を改善して引き続き使用することになりました。今回の改善工事は、従来の複合ラグーン処理の前処理と放流水の処理をさらに高度にするものです。これによって、一日の

処理量は七十キロ増、前処理の一部焼却処理以外は他の多くの施設で採用している標準的なものになります。市道の廃止、認定は、交通事情の変化に伴い、これまでの市道を全面的に見直し、国道、主要県道によって七ブロックに区分、再編成したものです。旧路線を全面的に廃止。新しい道路路線に基づく市道は、八百十二路線、延長四百八十六キロ増です。

29チームが熱戦

市長杯 市争 スカッシュ バレーボール大会

第一回南國市長杯争スカッシュバレーボール大会が、二月十一日、市民体育館で開かれ、二十九チーム百十六人が熱戦を繰り広げました。

スカッシュバレーボールは、だれでも気軽にできる軽スポーツとして注目を集めています。この大会は、スカッシュバレーボールの振興と健康づくり、地域の交流を図る目的で開かれました。

浜田一雄大会長、倉内俊幸大会実行委員長（岡豊）のあいさつの後、六ブロックに分かれてリーグ戦を行いました。その後、各リーグの上位十六チームが決勝トーナメント。各リーグを勝ち抜いてきた実力チームどうしとあって、白熱したゲーム展開となりました。



116人が参加し、和やかな雰囲気です試合を楽しんだ

した。今回の大会は、各チーム女性が一人以上という規定になっており、歓声と和やかなムードのなかで試合を楽しんでいました。結果は次のとおりです。

優勝＝岡豊体育会E▽準優勝＝國府まほろばA▽三位＝三和体育会